

函館の
(石川啄木)

函館の
青柳町こそ
かなし
けれ

友の
恋歌
矢ぐるまの
花

解説 家の周囲に矢車の花が咲き、友と文学を語り恋愛を談じ作歌に親しんだあの青柳町時代がとりわけて懐かしい、と。

青柳町、ここは啄木が家族共々住んだ町であり、恩人、宮崎郁雨^{みやざきいづる}によって生活の万端は支えられていた。そして函館に集っていた文芸結社「昔蓐社^{ほくしゆくしゃ}」の若い同人達の間での話題は文学でなければ恋愛であった。

語釈 ※かなしⅡ「かなし」に漢字を当てれば、「悲し」ではなく、「愛^{かな}し」かも知れない。「こそ：けれ」の係り結びによって強調された「かなし」を具体的に示したのが「友の恋歌」と「矢ぐるまの花」です。

通釈 友人たちとの熱い文学談義と恋の香り、そしてその日々を彩った矢車の花。青柳町という地名の若々しい印象が加わって、そこからは慈しむような函館時代への懐旧の情が浮かび上がります。